

授業科目名・形態	病態治療学Ⅱ（脳神経外科） 演習	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	高橋 敏夫	実務経験の有無	有	開講期	2年前期

【授業の主題】

中枢神経疾患についての解剖・生理・病態治療学的な知識を深める。更に、脳神経外科の治療対象となる中枢性疾患の特長、看護するためのポイントとその理論的背景を学び、医療現場での応用力を養うことを主眼とする。

【到達目標】

- ① 中枢神経系の構造と機能が理解できる。
- ② 脳神経疾患とその治療について理解できる。
- ③ バイタルサインについて理解できる。
- ④ 各疾患の看護のポイントを理解できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 脳神経外科看護の基礎知識
中枢神経系の解剖と病態生理を理解する。（意識障害、頭蓋内圧、脳ヘルニア、神経症候、脳脊髄液）
脳神経疾患の看護の基礎を身につける。
- 第2回 脳血管障害
脳血管障害とは何かを理解する。（閉塞性脳疾患、出血性脳疾患）
脳血管障害の看護のポイントを学ぶ。（刻々と変化する病態への理解を深める）
- 第3回 頭部外傷・機能的脳疾患
頭部外傷に伴う脳損傷の病態を理解する。頭部外傷後の合併症の病態、看護のポイントを学ぶ。
機能的脳疾患の症候と治療について理解を深める。
- 第4回 脳腫瘍と中枢神経系感染症
脳腫瘍に共通する病態生理、代表的な脳腫瘍の特徴を理解する。
脳腫瘍の際に現れる特徴的な症候と看護のポイントを学ぶ。
- 第5回 先天性奇形・その他
中枢神経系の先天性奇形の発生機序と代表的な奇形の特徴を学ぶ。
医療事故を回避するために必要な考え方を事例から学ぶ。

【授業実施方法】

プロジェクターを使用した講義形式で行う。当日、スライドと同等の講義資料を配付します。

【授業準備】

3日(3回)に分けた集中講義の形で行いますので、各講義の間隔が空きます。内容を十分に理解するには、講義の前に、前回の講義（特に第1回の講義内容）について復習しておく必要があります。

【主な関連する科目】

解剖学、神経内科学、小児科学、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

特に教科書の指定はありません。参考図書としては「系統看護学講座（専門11）及び（別巻2）」、ビジュアルノート（MEDIC MECIA）等が、良いかも知れません。

【参考文献】 特になし

【成績評価方法】

- 1) 筆記試験 90%
- 2) 授業態度等 10% により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

脳外科の臨床医として勤務。この経験を活かして現場で役立つような授業にしたい。

【学生へのメッセージ】

丸暗記するのではなく、個々の疾患の病態を理解することに主眼を置いて下さい。臨床現場で実際に役立つ考え方の基本“何故そうなるのか”を身につけ、知識だけではなく応用力を高めましょう。